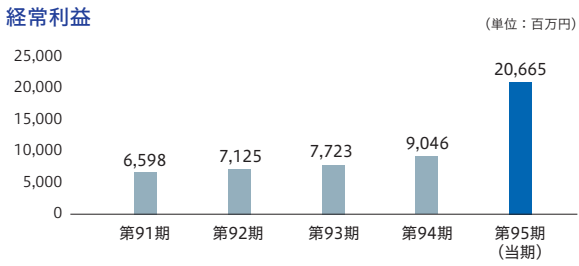
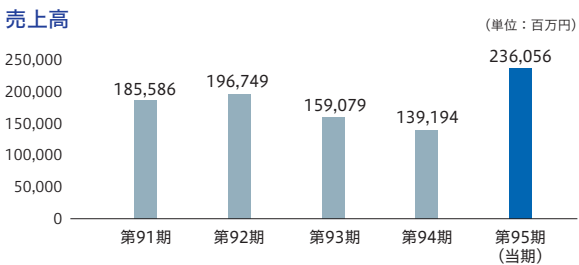


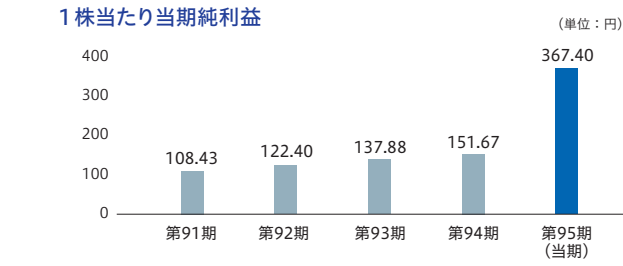
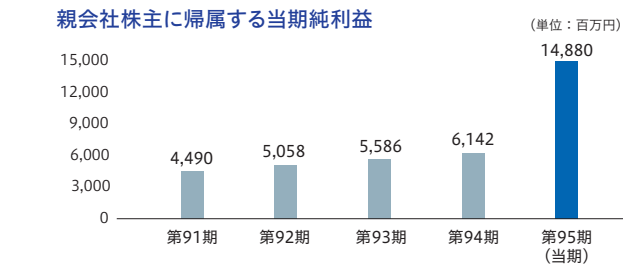
■ 連結財務ハイライト



■ 連結財務諸表

連結貸借対照表 (単位:百万円)

科 目	金 額	
	前連結会計年度 2021年3月31日現在	当連結会計年度 2022年3月31日現在
資産の部		
流動資産	70,868	113,500
固定資産	26,698	28,115
有形固定資産	21,480	22,615
無形固定資産	124	115
投資その他の資産	5,093	5,384
資産合計	97,567	141,616
負債の部		
流動負債	44,234	72,271
固定負債	9,548	10,839
負債合計	53,782	83,110
純資産の部		
株主資本	42,387	55,526
資本金	6,346	6,346
資本剰余金	8,843	8,843
利益剰余金	28,538	41,677
自己株式	△1,340	△1,341
その他の包括利益累計額	700	2,052
その他有価証券評価差額金	1,195	1,233
繰延ヘッジ損益	14	△99
為替換算調整勘定	△745	661
退職給付に係る調整累計額	236	256
新株予約権	145	145
非支配株主持分	551	781
純資産合計	43,785	58,505
負債・純資産合計	97,567	141,616



連結損益計算書 (単位:百万円)

科 目	金 額	
	前連結会計年度 2020年4月1日から 2021年3月31日まで	当連結会計年度 2021年4月1日から 2022年3月31日まで
売上高	139,194	236,056
売上原価	123,063	206,795
売上総利益	16,130	29,261
販売費及び一般管理費	6,885	8,884
営業利益	9,245	20,376
営業外収益	495	1,052
営業外費用	694	763
経常利益	9,046	20,665
特別利益	6	11
特別損失	94	87
税金等調整前当期純利益	8,958	20,590
法人税等合計	2,774	5,504
当期純利益	6,183	15,085
非支配株主に帰属する当期純利益	40	204
親会社株主に帰属する当期純利益	6,142	14,880

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

科 目	金 額	
	前連結会計年度 2020年4月1日から 2021年3月31日まで	当連結会計年度 2021年4月1日から 2022年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△4,521	△15,621
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,972	△3,417
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,219	17,912
現金及び現金同等物に係る換算差額	△199	202
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△3,474	△923
現金及び現金同等物の期首残高	9,177	5,702
現金及び現金同等物の期末残高	5,702	4,779

■ 会社概要

創 業 1922年11月23日
設 立 1948年10月29日
資 本 金 6,346,642,553円
従 業 員 数 324名
営 業 品 目 ●アルミニウム二次合金地金(ダイカスト用・鋳物用・圧延用・脱酸用)の製造・販売
●溶解炉及び関連設備・機器、溶解システム等の設計・製作・販売並びにその補修

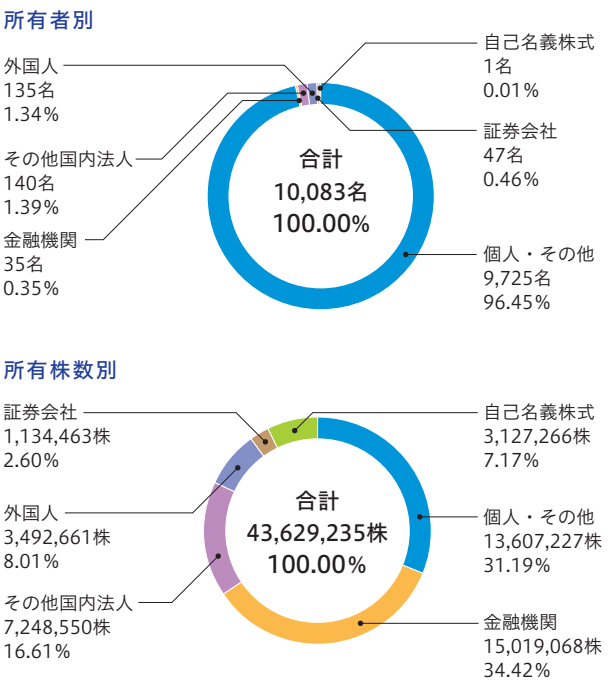
■ 会社の株式に関する事項

- (1)発行可能株式総数…………… 160,000,000株
(2)発行済株式の総数…………… 43,629,235株
(自己株式3,127,226株を含む。)
(3)株主数…………… 10,083名
(4)大株主

株 主 名	持株数 千株	持株比率 %
有 限 会 社 山 本 エ ス テ ー ト	3,480	8.5
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	3,397	8.3
山 本 隆 章	2,205	5.4
株 式 会 社 り そ な 銀 行	1,904	4.7
株 式 会 社 日 本 カ ス ト デ ィ 銀 行	1,795	4.4
株 式 会 社 三 菱 U F J 銀 行	1,580	3.9
大 紀 ア ル ミ 得 意 先 持 株 会	1,177	2.9
株 式 会 社 み ず ほ 銀 行	1,004	2.4
み ず ほ 信 託 銀 行 株 式 会 社	1,003	2.4
株 式 会 社 三 井 住 友 銀 行	1,002	2.4

(注) 1. 上記以外に自己株式を3,127,266株保有しております。
2. 持株比率は、自己株式(3,127,266株)を控除して計算しております。

■ 株式分布状況

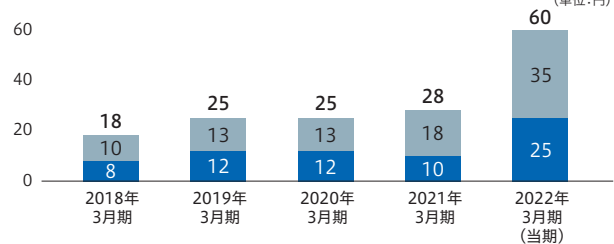


■ 役 員

代表取締役 社長執行役員 山 本 隆 章
代表取締役 副社長執行役員 林 繁 和
取締役 専務執行役員 藤 和 正
取締役 常務執行役員 岡 野 守
取締役 常務執行役員 山 岡 正
取締役 常務執行役員 後 藤 和
取締役 常務執行役員 辰 野 英
取締役 常務執行役員 磯 谷 謙
取締役 常務執行役員 森 川 芳
取締役 常務執行役員 谷 敏
取締役 常務執行役員 野 澤
取締役 常務執行役員 石 黒
取締役 常務執行役員 門 谷
取締役 常務執行役員 小 畑
取締役 常務執行役員 中 尾
取締役 常務執行役員 黒 須
取締役 常務執行役員 湯 川
取締役 常務執行役員 山 田
取締役 常務執行役員 川 口

(注) 1. 辰野守彦、磯貝英士及び谷謙二は、社外取締役であります。
2. 野澤密孝、石黒訓は、社外監査役であります。

■ 1株当たり配当額の推移



■ 株主メモ

事 業 年 度 4月1日から翌年3月31日まで
定 時 株 主 総 会 6月中
配 当 の 基 準 日 中間配当 9月30日
期末配当 3月31日

単 元 株 式 数 100株
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号
みずほ信託銀行株式会社

郵便物送付及びお問合せ先	
	証券会社に口座をお持ちの場合 特別口座の場合
郵便物送付先	〒168-8507東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問合せ先	0120-288-324（フリーダイヤル）
お取扱店	みずほ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店
未払配当金のみ、株式会社みずほ銀行 本店及び全国各支店でもお取扱いいたします。	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合せ先・お取扱店をご利用ください。

公 告 方 法 電子公告
但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
※公告掲載の当社ホームページアドレス
https://www.dik-net.com/
上 場 証 券 取 引 所 東京証券取引所プライム市場

第95期 報告書

2021年4月1日から2022年3月31日まで

株式会社 大紀アルミニウム工業所

証券コード：5702

■ 株主の皆様へ

株主の皆様には、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社の2021年4月1日から2022年3月31日までの第95期報告書をお手許へお届けいたします。

2022年6月

代表取締役 社長執行役員

山本隆章

■ 事業の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が度重なり発令されたことで、経済活動や消費活動が再び制限を受けました。

また、海外でも、依然として新型コロナウイルス感染症拡大の影響や、ロシアによるウクライナ侵攻により、世界経済の先行きは極めて不透明な状況で推移しました。

こうした環境のもと、大手需要先である自動車メーカーは新型コロナウイルス感染症拡大に加え、半導体や海外生産部品不足の影響があり減産を強いられました。しかし当社グループにおいては、中国を中心とした海外の競合品の供給が減少したこと、アルミ相場の堅調な価格の推移が追い風となり、販売数量は順調に推移しました。

この結果、当社グループの連結売上高につきましては、前年同期に比して平均販売価格も上昇したことにより、アルミニウム二次合金地金1,579億9千4百万円(前年同期比77.6%増)、商品・原料他780億6千2百万円(前年同期比55.4%増)で、これらを併せた売上高総額は2,360億5千6百万円(前年同期比69.6%増)となりました。

また、収益面につきましては、製品価格と原料価格の価

格差(スプレッド)が順調に推移したこと、海外の連結子会社の業績が好調であったことにより、経常損益につきましては、206億6千5百万円(前年同期比128.4%増)の利益となり、親会社株主に帰属する純損益は148億8千万円(前年同期比142.2%増)の利益を計上することとなりました。

今後の見通しにつきましては、ウクライナ情勢の深刻化の影響による世界的な消費の落ち込みや生産活動の停滞など、世界経済が減速することが懸念されており、予断を許さない状況が続くと見込まれます。

同時に、当アルミニウム二次合金業界は大手需要先である自動車メーカーの半導体不足による部品メーカーのサプライチェーンの混乱による影響が続き、先行きの不透明感が強い状況で推移するものと思われます。

こうした中、当社グループは、需要に見合う効率的な生産体制、原材料の価格変動にも素早く対応出来る購買体制を構築するなど、時代の変化に敏速に対応し、社業の発展に万全を期する所存であります。

株主各位におかれましては、今後とも変わらぬご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

国内ネットワーク

お客様と、もっと近くに。もっと親密に。

生産拠点となる5工場。前処理その他の重要な役割を担う関係会社。
加えて、営業と情報の前線となる各地の事業拠点・・・・・・。
着々と布石を打ってきた大紀グループの国内ネットワークは、年々、密度を高めつつあります。
これまで以上に、お客様の声に近づくために ―――。
製品納入はもとより、技術サービス、アフターケアなど、大紀グループならではの多面的な活動を展開中です。



グローバルネットワーク

世界とリンクする。“Global”な視点と活動。

それは、海外との取引や活動拠点の設置といった内容のみを指すものではありません。
品質で、コストで、サービスで、また研究開発等の先進性で、たえず世界の水準を見すえて、
地球レベルの活動へとアクセスするという、息の長い取り組みをめざすものです。
地球全体を舞台に、その活動と情報のネットワークは点から線へ、線から面へ。
私たちの“Global” ― さらなる新段階を拓きつつあります。



特集

大紀アルミニウム工業所グループ 新中期経営計画

当社グループは、持続可能な開発目標（SDGs）のフレームワークを参照し、2030年に想定される「対応すべき外部環境の変化」と「大紀グループの事業活動に及ぼす影響～リスクと機会～」を考察しました。
そこで抽出された課題のうち、「社会への影響度（ステークホルダーからの期待）」と「大紀グループの事業における影響度（事業機会・リスク・事業の持続性）」の両評価軸でマテリアリティ分析（重要度評価）を行い、優先的に取り組むマテリアリティ（重要課題）を特定しました。



大紀アルミニウム工業所グループ VISION2030『DAIKI ∞NEXT ∞』		
2030年のビジョンに向けた 重点目標設定「5本の柱」		
柱	幹	対応するSDGs/ESG
I	経営基盤の強化 ■成長分野への投資 ハイブリッド車・電気自動車・燃料電池車分野向けリサイクル材の市場開拓 ■経営資源の有効活用 ～JV・M&Aの戦略、リスクテイク戦略～ 原料サプライチェーン構築によるスクラップ集荷体制強化 海外戦略の再構築 ダイカスト事業強化 ■新しい生産システムの構築 ■企業価値向上・財務基盤強化 ■堅実・健全な経営体制	8, 9, 12, 13, 17, 25
II	高度循環型社会づくりへの挑戦 ■リサイクル原料選別技術・システムの構築 ■水平リサイクルシステムの構築	9, 12, 17, 25
III	地球環境保全 ■生産や流通过程における二酸化炭素排出削減 ■製造工程で発生する廃棄物ゼロ ■無煙・無臭化の確立	3, 7, 11, 12, 13, 17
IV	地域や社会への貢献と発展 ■成長著しい新興国における雇用創出と地域社会への貢献 ■周辺地域との交流と貢献	1, 3, 4, 8, 10, 11, 12, 17
V	人材の育成と活用 ■グローバルイノベーションの推進 ■安全な労働環境設備、労働災害の防止 ■ダイバーシティの推進 ※グローバルイノベーション：グローバルイノベーション＋ローカライゼーション	3, 4, 5, 8, 10, 17